

# 加齢研ニュース

令和 7 年 12 月 1 日  
東北大学加齢医学研究所  
研究会同窓会発行

## 【所長室便り】

田 中 耕 三

2025 年度も半ばを過ぎました。今年は昨年にも増して猛暑で、気温が 35℃ 近い日が続きましたが、ようやく秋らしくなってきました。加齢研の近況はと言いますと、やはり国際卓越研究大学関連の話題が中心になります。

まず国際卓越研究大学に伴う新たな人事戦略については、国際的に卓越した研究者を雇用する枠である国際卓越教員第 1 号として、ケミカルバイオロジー・AI 生命科学分野のハーバード大学の Liron Bar-Peled 博士との業務委託契約が完了し、加齢研でのサテライトラボの構想を進めています。また第 2 号として、時計遺伝子の発見者であり、革新的な老化研究を行っているテキサス大学の Joseph Takahashi 博士の招聘を進めています。初期・中堅キャリア研究者のテニュアトラックポジションである次世代教員については、国際公募を行った結果、マルチオミクス解析による老化研究を推進している大

阪公立大学の高杉征樹准教授を選考いたしました。これらの国際卓越研究大学関連人事に加えて、従来の人件費で雇用されている承継枠教員として、常在細菌による細胞老化を介した組織老化機構について研究している河本新平教授が着任され、加齢医学研究の中でも手薄であった老化研究の強化が着実に進んでいます。承継枠教員については、さらなる教授の公募も行なっています。これに加えて、2021 年より加齢研を代表する若手研究者としてご活躍して来られた佐藤亜希子・河岡慎平テニュアトラック准教授のテニュア取得が承認され、現在教授選考を行っております。

国際卓越研究大学に伴う研究支援体制の強化といたしましては、共用設備の整備のための学内公募が行われ、194 件もの要求があった中、狭き門をくぐり抜けた 20 件のうち、加齢研からは共焦点レーザー走査型顕微鏡と質量分析装置（利用者グループの一員として申請）の 2 件が採択されました。特に質量分析装置 (Orbitrap Astral 質量分析計) は最高峰のプロテオミクス解析性能を有する高額機器で、加齢研内に設立

## 加齢研ニュース 第 84 号 目次

所長室便り（田中 耕三）	1
新任教授挨拶（河本 新平）	3
分野紹介（イン・シリコ解析研究分野）	5
随 想（高橋 芳雄）	6
研究員会便り（河岡 慎平）	9
研究会同窓会広報（千葉奈津子）	13
編集後記	15

予定のマルチオミクスコアファシリティの中心機器として老化研究推進に資すると共に、広く学内外の研究力強化に貢献する予定です。また加齢研の URA（ユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーター）第 1 号として鈴木康弘先生が着任され、国際対応人材の古舘由美さんと共に、新設された国際戦略室において、国際研究力強化に関する情報収集・評価分析やこれに基づく研究戦略策定の支援、研究成果に関わる広報の支援といった幅広い業務で活躍いただいています。このように、国際卓越研究大学認定が追い風となって、加齢研を加齢医学研究の世界的拠点として確立するというビジョンの達成に向けた道筋ができています。

研究所の活動としましては、6 月 2, 3 日にカロリンスカ研究所との合同シンポジウムが行われました。カロリンスカ研究所は、スウェーデンのストックホルムにある、医学系としては世界最大の教育研究機関であり、ノーベル生理学・医学賞の選考委員会があることで有名です。加齢研との交流は、川島隆太前所長がカロリンスカ研究所に留学されていたことに端を発し、2023 年には加齢研の研究者がカロリンスカ研究所を訪問して第 1 回のシンポジウムが開催され、今回第 2 回として日本での開催に至りました。今回は“Brain and Aging”をテーマとして、14 の演題が発表され、両研究所の研究者に加えて、薬学研究科の佐々木拓哉先生、医学系研究科の大隅典子先生、東北メディカル・メガバンク機構長の山本雅之先生にもご講演いただきました。実行委員の魏副所長、佐藤准教授をはじめ、ご尽力いただいた皆様に感謝申し上げます。シンポジウム後には、今後の両研究所の連携について議論するミーティングが行われ、その後のさらなる議論を経て 8 月に部局間学術協定が締結されました。国際卓越研究大学として海外研究機関との連携はますます重要になってきており、加齢研が国際的研究拠点として活動

していく上でもカロリンスカ研究所との連携を一層深めていく予定です。早速 10 月にカロリンスカ研究所の担当者が加齢研を訪問し、また 2 年後にはカロリンスカ研究所で第 3 回のシンポジウムを行う予定です。

人事消息です。加齢生物学分野教授として、河本新平博士が 7 月にご着任されました。魏副所長が 2019 年に教授としてご着任以来、加齢研としては 6 年ぶりにお迎えする教授となります。河本先生は、2006 年に京都大学農学部食品生物科学科をご卒業され、2011 年に京都大学大学院医学研究科の本庶佑博士の研究室で学位を取得しました。その後理化学研究所免疫・アレルギー科学総合研究センター粘膜免疫研究チーム（Fagarasan Sidonia チームリーダー）において、IgA を介した宿主と腸内細菌叢の相互作用が生体恒常性維持に果たす役割を明らかにしました。2016 年に大阪大学微生物病研究所環境応答研究部門遺伝子生物学分野に異動し、原英二教授の下、細胞老化に着目し、腸内細菌叢による B 細胞の細胞老化誘導が、IgA を介した宿主と腸内細菌叢の共生関係の加齢に伴う破綻の原因であることを見出し、同様の機構が加齢に伴う宿主と口腔細菌叢の共生関係破綻の一因となっていることも明らかにしました。これらの研究は、若齢時において生体にとって有益な存在である腸内細菌叢が、老化の進行につながる生体ストレスの一つとして働くことを明らかにした画期的なものです。今後は、常在細菌叢が組織の加齢変容に与える影響の解明とその制御法の開発を目指し、腸内細菌によるヒト B 細胞の細胞老化誘導機構や腎老化促進機構、皮膚の常在細菌による細胞老化を介した組織老化機構の解明などを行う予定であり、さらなる発展が期待されます。

加齢研初の URA として、鈴木康弘特任准教授が 7 月にご着任されました。鈴木先生は 2000 年に学位を取得され、2006 年から 2023

年まで加齢研腫瘍循環研究分野で佐藤靖文先生の研究室に在籍し、助教として血管新生制御因子バソヒビンの研究などで数多くの業績を挙げられました。その後ベンチャー企業のグループ長としてヒト前脂肪細胞を用いた遺伝子・細胞治療法の開発に携わっておられましたが、アカデミアの第一線で研究者としてご活躍され、かつ民間企業でのご経験をお持ちで、加齢研について熟知しておられる URA に最適な人材としてお声がけし、選考の結果来ていただくことになりました。鈴木先生のご着任に伴い、魏副所長を室長、鈴木先生を副室長とする国際戦略室を発足させ、8月に国際対応人材として採用された古舘由美さんと共に、プロジェクト棟1階の旧グローバルルームを改装した部屋で業務に当たっていただいています。ご着任早々、各種会議に極力同席いただいて加齢研の状況を把握していただき、第4期中期目標期間の法人評価対応に関する実績報告書の作成といった作業から、カロリンスカ研究所等との国際連携、広報情報室と連携した動画やホームページの作成といった広報業務まで、幅広い業務を行っていただいています。資料作成のための情報収集に始まり、本部や事務、教員や所内各所との連絡・調整、そして資料の作成に至るまで、きめ細かにご対応いただき、まだ着任後3ヶ月程度ですが、URAの重要性を実感する日々です。これまで、URAが配置されている部局の作り込まれた書類やポンチ絵をうらやましく思っておりましたが、これからは今まで余裕がなかった新たな企画についても、作り込んだ書類で積極的に提案できるものと考えています。

長年にわたって加齢研の研究会同窓会事務局にご勤務いただいていた齋藤秀子さんが、7月末でご退職されました。研究会同窓会の運営にあたっては、同窓会員への連絡や、同窓会総会や新人歓迎会、集談会の準備など、皆齋藤さんを頼りにしておりました。これまで長い間、ど

うもありがとうございました。お顔を拝見できなくなるのを大変寂しく思っておりますが、今後のご発展をお祈り申し上げます。後任として、昨年度まで医用細胞資源センターにおられた小泉藤美さんにご勤務いただいております。これからどうぞよろしくお願いいたします。

## 【新任教授挨拶】

加齢生物学分野 河 本 新 平

このたび、2025年7月より東北大学加齢医学研究所加齢生物学分野の教授として着任いたしました河本新平と申します。

私は千葉県出身ですが、仏像を拝観することが趣味で、学生時代から関西地方とのご縁が深くありました。実は若い頃、東大寺のお坊さんになって仏典を研究したいと夢見たこともありましたが(親の反対で断念しましたが)。特に奈良・聖林寺の十一面観音菩薩立像には心を打たれ、今でも私の一番好きな仏像です。

大学進学にあたって、「関西で大学生活を送りたい」という強い希望があり、京都大学農学部に進学しました。食に関心があり、「食を通じて人の健康寿命を延ばしたい」という思いから、食品や腸内環境に興味を持つようになりました。学部時代に、腸には多くの腸内細菌が存在し、それが免疫の働きに深く関わっていることを知り、大学院では腸の免疫について研究することを決意しました。

その決意に至るまでには、大学在学中に京都大学や大阪大学などの免疫学を専門とする先生方に直接お話を伺いに行った経験が大きく影響しています。当時の私は、論文もほとんど読んだことがない未熟な学生でしたが、先生方はそんな私にも丁寧に研究の内容を説明してくださり、免疫学の面白さや奥深さを教えてくださいました。その温かい対応に、今でも深く感謝しています。特に、本庶佑先生の研究のお話には

強く心を動かされ、大学院では本庶先生のご指導のもとで免疫学を学ぶことを決意しました。

本庶先生に「君は何に興味があるんや?」と聞かれ、「腸の免疫です」と答えたところ、理化学研究所で粘膜免疫の研究をされていたシドニア・ファガラサン先生をご紹介いただきました。シドニア先生は、本庶研の出身で、当時ちょうど独立されたばかりの勢いのある若手研究者でした。新しい研究室を立ち上げたばかりのタイミングで、私のような大学院生にも熱心に研究の方向性を示してくださり、その情熱とエネルギーに強く惹かれました。

大学院在学中はシドニア先生の研究室で、腸内で分泌される抗体「IgA (免疫グロブリン A)」に注目し、腸内細菌のバランスを保つ仕組みについて研究を進めました。この研究では、IgA が腸内細菌の種類や働きを調整する重要な役割を果たしていること、そしてそのバランスが崩れると自己免疫疾患などの病気につながる可能性があることを明らかにし、いくつかの論文として発表することができました。大学院からポスドクまでの9年間、シドニア先生には長くご指導いただき、研究者としての基礎を築くことができました。

また、博士課程の学位審査では、免疫学の世界的権威である坂口志文先生にご担当いただきました。指導教官が本庶佑先生、学位審査の担当教官が坂口志文先生という、どちらもノーベル賞受賞者という大変光栄な環境で学ばせていただいたことは、私のささやかな自慢です。

その後、新たな挑戦を求めて、大阪大学微生物病研究所の原英二先生の研究室に助教として着任しました。原先生は、腸内細菌が細胞の老化を引き起こし、それががんの進行に関係していることを発表されており、私は腸内細菌と老化の関係について研究を始めました。

老化研究は、始めた当初はなかなか成果が出ず、苦しい時期もありましたが、原先生の粘り

強いご指導と励ましのおかげで、腸内細菌が免疫細胞の一種である「B 細胞」の老化を引き起こし、それによって腸内環境が加齢とともに乱れていく仕組みを発見することができました。この成果は論文として発表し、これまでの研究の集大成とも言えるものとなりました。

特に印象深いのは、大学院時代にシドニア先生の研究室で B 細胞と IgA を中心に研究していたことが、偶然にも後年の老化研究とつながったことです。当初は老化と B 細胞の関連を意識していたわけではありませんでしたが、結果的に両者の関係を見出すことができたのは、研究者として非常に幸運だったと感じています。

そしてこのたび、大阪大学微生物病研究所から東北大学加齢医学研究所へと異動し、教授として研究室を立ち上げ新たなスタートを切ることとなりました。東北大学では、これまでの研究経験を活かし、「腸内細菌」「免疫」「細胞老化」の三つの要素に着目しながら、老化の根本的な仕組みの解明に取り組んでまいります。そして、研究成果を社会に還元し、老化の進行を抑える方法や健康寿命を延ばす手法の開発につなげていきたいと考えています。特に、「食」を通じて人々の健康に貢献するという初心を忘れず、腸内環境や免疫の働きを整えることで、老化の進行を抑える方法の開発にも取り組んでいきたいと考えています。さらに、加齢医学研究所の皆さまと協力しながら、分野横断的な研究にも積極的に挑戦し、東北大学から世界に向けて意義ある成果を発信していけるよう尽力してまいります。

今後ともご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



## 【分野紹介】

### イン・シリコ解析研究分野

#### <沿革>

本分野は、情報科学と生命科学の融合領域を切り拓くべく、2010年に設立されました。設立当初より、木下賢吾教授を中心に、ゲノム解析、構造生物学、計算科学を縦断する研究体制を整え、国内外の共同研究を推進してきました。木下教授は、京都大学理学部・大学院を経て博士（理学）を取得され、その後理化学研究所、横浜市立大学、東京大学医科学研究所を経て、2009年10月より東北大学大学院情報科学研究科教授として着任しました。

近年では、同大学における東北メディカル・メガバンク機構のゲノム解析部門やスーパーコンピュータ基盤の構築にも深く関与し、バイオインフォマティクスの大規模推進の旗振り役を担っています。

大学院教育・若手育成にも力を入れており、情報科学・生命情報学・バイオインフォマティクスを学際的に学ぶ環境を提供しています。

#### <研究内容>

私たちの研究室では、ゲノム配列情報に代表される「生命情報」を情報科学的に扱い、生命システムの理解を目指しています。従来の生物学は、個別の遺伝子・タンパク質・現象を深く掘り下げて知見を蓄積してきた“枚挙の学問”として発展してきました。しかし、近年の「生命情報ビッグバン」とも言える急速なデータ蓄積により、研究の姿は大きく変化しつつあります。

大量・多次元のおミックスデータ（ゲノム、トランスクリプトーム、プロテオーム、メタボロームなど）や、長期コホート・多施設連携データ、さらには高精度構造情報・分子動態情報まで、研究対象のスケールも解像度も飛躍的に向

上しています。このような背景では、データが増えるだけでは“知る”には不十分で、「どう処理し、どう知見を引き出すか」が研究の核心となります。

本研究室では、この課題を以下のような三つの柱で捉え、アルゴリズム・基盤・応用という観点から体系的に取り組んでいます。

#### 1. データ駆動型解析アルゴリズム開発

遺伝子発現量データから遺伝子ペア間の機能的関連性を定量化する“共発現指標”の分野をひとつの例としています。従来は単純に遺伝子ペアの発現量相関係数を用いてきましたが、私たちは「主成分解析により主成分空間に射影→上位主成分を順次除去→多次元共発現度指標」という手法を考案し、この手法が従来指標に比べて遺伝子の機能的関連をよりの確に捉えうることを実証しました。さらに、こうした手法を遺伝子共発現ネットワーク構築、モジュール解析、機能予測などに展開し、未知遺伝子の機能推定や疾患関連遺伝子群の抽出に貢献しています。

また、構造生物学的・物理化学的知見を取り込んで“希少変異の影響・タンパク質立体構造-機能相関”といった領域にも踏み込んでおり、立体構造情報・分子シミュレーション・タンパク質間相互作用ネットワークをバイオインフォマティクス手法で統合することで、「ゲノム変異から生命機能変化／疾患リスクまで」の橋渡しを志向しています。

#### 2. 大規模基盤の構築と運用

解析アルゴリズムが有効に働くためには、高速・大容量の計算インフラ、そして質・量ともに信頼できるデータ基盤が欠かせません。私たちは、「10万人規模ゲノム／オミックス解析」「スパコンを用いた分子動力学シミュレーション」「コホート・バイオバンク連携」などを念頭に、国内外研究機関・産学連携・学内ネットワークと協力しながら環境整備を進めています。たとえば、東北メディカル・メガバンク機

構 (ToMMo) において、コホートデータ・全ゲノム配列データ・生活習慣データ等を統合・解析可能なプラットフォームを構築・運用しています。このような基盤があることで、新規手法の検証、レプリケーション解析、さらには産学連携・社会実装を見据えた研究展開が可能になります。

### 3. 臨床・社会実装への橋渡し

理論・方法論・インフラを構築した上で、最終的には「生命情報を使って何を明らかにし、社会・医療にどうつなげるか」が重要です。本研究室では、希少変異の機能解明、疾患関連バリエーションの予測、バイオマーカー探索、個別化医療・創薬研究などの応用研究にも注力しています。例えば、日本人集団における CYP 系遺伝子バリエーションの網羅的機能解析、低出生体重早期予測モデル構築、眼・脳血管・代謝疾患にかかわる全ゲノム関連研究など、実際のコホート・遺伝データをを用いた成果も多数報告しています。さらに、構造・機能予測アルゴリズムを介して「立体構造から変異の影響を読む」アプローチも展開しており、構造・機能・集団データを融合する“システム生命情報科学”の姿が形を取りつつあります。

この三本柱により、私たちは生命情報ビッグバンの時代にふさわしい「情報生物学」の確立を目指しています。単にデータを積み上げるのではなく、データから意味を取り出し、生命システムのダイナミックな構造・変化・多次元ネットワークをモデル化し、そこから新たな知見を引き出す。こうした姿勢こそが、これからのバイオインフォマティクス研究に求められるものだとは私たちは考えています。将来的には、ナノスケールの分子ダイナミクスから集団ゲノム・臨床データ、さらに環境・ライフスタイル情報を含むマルチスケール情報統合へと、情報生物学を拡張していきたいと思っています。

(文責：木下 賢吾)

## 【随 想】

### 弘前のジャズバーについて

高 橋 芳 雄

瀧先生からのご指名で、今回の随想を担当させていただきます。先生より、私の趣味である、ジャズかカレーの話が聞きたいとのリクエストがありましたので、私が弘前大学に在籍していた時に行きつけであった、ジャズバーのことにについて書きたいと思います。

私の趣味のひとつは音楽を聴くことです。とはいえ特定のジャンルにこだわりはなく、レゲエ、ヒップホップ、パンク、ロック、ジャズからクラシックまで、かなり幅広く聴きます。それぞれのジャンルに関する知識は非常に浅いこと、また私の貧弱な記憶能力のため、ミュージシャンの名前や曲名についてはあまり明るくありません。曲やそのジャンルに関わる背景といったものよりは、その音楽を通して得た経験や出会いのほうに私にとってとても印象深いものであり、より鮮明に記憶されています。そこで今回は「随想」というテーマにふさわしく、私の思い出のあるジャズバーのことにについて、思いつくままにつづります。

### 店の場所と様子

店の場所は弘前の繁華街・鍛冶町の一角にある「かくみ小路」にあります。店は古い木造(?)の建物の二階。定休日は月曜日のみ。それ以外の日は毎日 17 時～24 時まで営業しています。かつてはモーニングもやっていたそうですが、だいぶ前にやめてしまったとのこと。営業中は、店に上がる階段の前に店の名前の入った「Key Coffee」の看板が灯り、それが営業している合図です。建物のわきの二階に続く階段の両側にはライブのポスターが貼ってあります。どれも古いままで新しいものはありません。寒い時期は店の扉は閉まっていますが、暑い時期は入口と

窓が開け放してあり、店の前の通りにまでかすかに音楽が聞こえます。

店内はカウンターが8席ほど、テーブル席も同程度。入口に一番近いカウンターの端に、今では珍しいピンクのダイヤル式電話が置かれています。カウンターは切れ目のない一枚板。右手にはレコードブースがあり、ターンテーブルとアンプ、その背後の棚には隙間がないほどレコードが収められています。CDもありますが、レコード棚に沿って雑然と積み上げられています。棚に入りきらないレコードやCDはテーブルの脇の段ボールに収納されています。ブースの手前には黒板があり、マスターがしたためたブラック・ミュージックへの賛歌が書かれています。店の一番奥にはスピーカーが設置され、メーカーなど詳しいことは覚えていませんが、そのスピーカーからはとても良い音が流れてきます。この音が私の基準になってしまい、他のところでは音の設定や、スピーカーの位置がどうしても気になってしまうようになりました。空いていれば、入口近くから二番目の席に座るのが常でした。

## マスター

マスターは、2022年時点で70代中盤で白髪。秋田県出身で、秋田の方言を話します。

店に入ると大抵客はおらず、入口から一番近い席に座って、拡大鏡を使って新聞や雑誌を読んでいます。その時々によって変わるものの「おお、来たか」とか「そろそろ来る頃だと思ってた」とか、そんなようなことを言って私を迎え入れ、ゆっくりと椅子から立ち上がり、私に飲むものを用意してくれます。そのあと、マスターは冷蔵庫から瓶ビールを取り出し、「これでやっと飲める」といって、自分でグラスに注ぎ(私が注ぐこともある)、小さく乾杯をします。ちなみに、私はマスターから苗字で「タカハシ」と呼ばれています。話題は店で流れている曲や

ミュージシャンの話が多く、ときに音以外の雑談へと派生していきます。

## システム

まず、メニューはありません。席に座ると「スコッチ? バーボン?」と聞かれます。なお、通い始めた当初は「黒? 赤? (ジョニーウォーカー)」でした。私はウイスキーに全く興味がないので、それぞれの銘柄が何なのかを聞いたことはないですし、いつも適当に「スコッチのソーダ割」を頼んでいます。ただ、他にも瓶ビールとコーヒーがあり、仕事の帰りに立ち寄ることが多かったため、実はコーヒーを飲むことが多かったです。そのため、そのうち「スコッチ? バーボン?」と聞かれることも少なくなり、「いつものでいいか」といって徐にコーヒーを淹れてくれるようになりました。なお、フードメニューはありません。ナッツやするめ、えびせんなどを適当に出してくれます。ときには「タカハシが来たら開けようと思っていた」と、マスターの“とっておき”のせんべいが登場することもあります。

会計は独特です。メニューがないので、値段が明示されていませんし、値段を聞いたこともありません。ちなみに、伝票もありません。会計を頼むと、なにやら数えるようなそぶりをみせ、最終的に「今日は〇〇円でいいか?」と聞かれますので、「はい」と返事をしてその値段を支払います。また、他の客にも同様のシステムが適用されているかはわかりませんが、私に対しては「勉強代」なるものと、「深夜料金」なるものが課されます。私の場合は、だいたい「勉強代含めて、〇〇円で」と言われます。また最後のほうは「いつものでいいか?」と値段すら言われなくなりました。もちろん、多くの日はコーヒー二杯と瓶ビール一本(マスターが飲んだもの)と決まっていたので、定額でも不思議ではありませんが、ずいぶん豪快で大らか

な会計に、よく黙って付き合っていたものです。また、客によって値段が変動するようで、同じコーヒーでも昔からのなじみと私とでは、値段が違っていたようです。

## 選曲

客がおらずマスターが一人で新聞を読んでいるときは大抵、European Jazz Trio が流れています。European Jazz Trio が好きかと言えばそうではないようで、「BGM としてちょうどいいから」とのこと。私と自分の飲み物を用意すると、ブースに行き、曲を変えます。前述した通り、壁一面にレコードがぎっしりと詰まっていますが、何らかの理由でこの段階ではレコードをかけてもらえません。私はどちらかというとアナログの音の方が好きなので、可能であればレコードが聞きたいと思っています。しかし、恐らくレコードをかけてもらえるのは、マスターの機嫌がいいこと、かけたい曲がアナログでしかないこと、といった2つの条件がそろっていることが必要になります。恐らく。というのも理由は聞いたことはありません。考えられる理由としては、面倒であること、アナログが消耗品であること、アナログの収録時間の性質上頻繁に裏返したり、入れ替えたりしなければならないことなどが考えられます。また、よくよく考えてみると、老眼のため針を目当ての場所に落としにくくなったことが大きな理由のひとつかもしれません。

この道 50 年のマスターからすれば、多くの客がそうであるように、私も“ジャズ初心者”です。有名なものを除いて、店でかけられた曲の半分以上はわかりません。そのため、CD（たまたに、レコード）をセットして、演奏がスピーカーから流れ始めると、CD（あるいは、レコードのジャケット）を渡してきます。多くの場合は、初心者である私への情報提供的な意味合いを持つものですが、時にはかけたい曲があるが、

ジャケットに印刷されている字が小さすぎるため、私に探すよう依頼することもしばしばあります。また、私はレコードブースに入ることを許された、数少ない客だと思います。これまでの長い歴史ではもっといたのかもしれませんが、今は少ないでしょう。少なくとも他の客がレコードブースに入っているのを見たことがありません。また、いつでも入っていいというわけではなく、マスターから「レコードの針を上げてくれ」といわれたことをもって、自分自身を“ブースに入ることを許された客”と自認しているだけです。実際、その時にもレコードを傷つけるのが怖かったのと、何か不可侵の神聖な場所であるように思われたため、結局はブースに足を踏み入れてはいません。

リクエストは可能ですが、基本的にはリクエストはしないことにしています。それは、自分が知らないものに出会える機会を逃してしまわないようにというのが一番の理由でした。片や、ジャズバーやジャズ喫茶のマスターが一番嫌うのが客のリクエストではないかと考えているからです。最近でこそ、そのノスタルジックな雰囲気を取り上げられ、若い人たちが少し興味を持ったため、少し盛り上がってきた印象はあるものの、もともと商売としてはとても儲かるようなものではありません。そのため、ジャズバーを営む最終的な目的は、自分が一番居心地の良い場所を整えることにあるように見えるからです。少なくとも、直接的にそのような話を聞いたことは無く、全くの個人的な意見です。しかしながら、この弘前の店以外にも様々なジャズバーでも、一見の客に愛想を振りまくようなことがありますし、常連のような客がリクエストしているのを見たこともありません。そのようなところから、なんとなく、リクエストはマナー違反のように思えてしまい、これまで自分からリクエストをしたことはない。ただ、弘前のマスターに関していえば、「これはタカハシ



が好きそうなやつだ」とか「タカハシがあまり聴かないようなやつだけ」といって曲をかけてくれることがあり、こちらを意識して選曲してくれている様子があり、それだけでもとても嬉しく感じます。また、稀に（年に一回あるかないか）「何か聴きたいものは無いのか？」とリクエストを聞いてくれることがあり、その時はここぞとばかりに、店の音響で聴きたかった曲をリクエストします。

### なぜ通ったか

中々癖の多い店であつ、会計は不明瞭。なお、それでも私が何故通い続けたのか。会計にせよ選曲にせよ、その後の所作や会話にせよ、阿吽の呼吸で事が運び、こちらが余計な気を遣わずにいられたからかもしれません。最大の理由は、そこでしか吸えない空気があり、そこでしか聞けない話があったからだと思います。Ray Brown のベースを青森空港まで運んだこと、Ornette Coleman と手紙をやり取りしたこと、Modern Jazz Quartet や Helen Merrill を弘前に呼んだこと、Charlie Haden にドタキャンされた話、青森に来た Bill Evans の演奏が寒さのせいとかそれほど良くなかったということ——いずれも雑誌には載らない、あの店でしか聞けない話でした。もっと沢山色々な話がありましたが、私の乏しい記憶力で思い出せるのはこのくらいです。いずれもマスターの個人的な経験に関する話でした。

また、なんとなくマスターに気に入られている感覚があったのも通っていた理由の一つです。うるさいことを言わない、リクエストをしない、言った通りの会計をする。これだけで十分気に入られる客の要件を満たす気がします。しかし、それ以上の親しみのようなものを私は感じていました。どこか出張に行った折には、お土産を買っていくのですが、それを奥様に渡すと「また、タカハシさんがいらしたの？」と

家で名前が出るようになっていたそうです。そのため、マスターへのお土産だけでなく、奥様へのお土産（特に、萩の月が好き）も買うようになりました。また今でも用事があって弘前に行く際は必ず立ち寄っており、「孫が帰ってきたみたいだ」といってマスターが喜ぶ様子をみて、私も嬉しくなっています（しかし、会計はいつも通り）。また、引っ越し前に最後に遊びに行った際、こちらが何も言わなくても、私がとても好きな曲の一つ、Thelonious Monk, Oscar Pettiford, Kenny Clarke のトリオが演奏する “It Don’t Mean a Thing”（アルバム『Thelonious Monk Plays Duke Ellington』の冒頭）をリクエスト無しにかけてくれたことは私の大事な思い出の一つになっています。

まだこの店については書ききれないことが沢山ありますが、紙幅と時間の都合上、今回はここで終わりにしたいと思います。また機会があれば、またこの店のことについて書きたいと思っています。

### 【研究員会便り】

研究員会委員長 河 岡 慎 平

R7.4 から R7.10 までの研究員会活動について総括します。主だった活動として、第 164 回集談会を実施しました。PI セッションでは魏先生と佐藤先生にお話をいただきました。魏先生のセッションでは EMBO Press のヘッドであり、EMBO Reports のチーフエディターでもある Bernd Pulverer 博士から EMBO の取り組みをご紹介いただきました。また、新しい試みとして、各研究分野の紹介セッションを作りました。有志による素晴らしい研究室紹介がなされ、参加された皆様の投票により、臨床加齢医学研究分野、認知行動脳科学研究分野、モドミクス医学分野、人間脳科学研究分野、統合生理学分

野が、発表賞を受賞しました。発表の内容を研究に限らないこと、また、(心理的なハードルが高いと思われる) Q&A セッションをなくしたこと、おそらくこの二つが要因となり、多くの学生さんがアクティブに参加してくれました。総参加者は 93 名でした。ご参加、ありがとうございました。さて、下半期も多くのイベントが企画されております。10 月 28 日のバドミントン大会、食事付き加齢研交流セミナー(心臓病電子医学分野 & 生体情報解析分野@12 月 22 日; 応用脳科学研究分野 & 認知行動脳科学研究分野@日程調整中)、そして DATE セミナーがあります。DATE セミナーでは、辻先生、松橋先生ご尽力のもと、慶應義塾大学の岡野栄之先生(3/12-13)、そして東京科学大学の室伏広治先生(日程調整中)というまたとない演者をお招きすることができ、素晴らしい機会になること、間違いありません。なお、室伏先生の招聘に関しては、医学系研究科の山田陽介先生に大変お世話になりました。加齢研若手共同研究助成金では、応募件数が少ないという課題を抱えていました。委員の先生方のご尽力で、応募の負担を極力減らすとともに、選考自体は抽選で行うという方法を採用し、11 件の応募を得て、5 件が採択されました。人事面では、研究員会を長らく支えてくださった齋藤秀子さんが 7 月に退職されました。齋藤さんの貢献はここでは書ききれないほどに大きく、齋藤さんがいなければ成り立たない、ということが多々ありました。この場を借りて感謝申し上げます。事務局は小泉藤美さんが引き継いでくださっており、研究員会は今後ますますパワーアップしていくのではないかと思います。引き続き研究員会をよろしくお願い申し上げます。

## 1. 令和 7 年度研究所若手アンサンブルプロジェクトについて

部局間の共同研究を支援する「2025 年度東

北大学若手研究者アンサンブルグラント」(Ensemble Grants for Early Career Researchers 2025) の公募が行われました。本年度は、全 35 件の応募のうち 18 件が採択となりました。応募件数は年度によって波がありますが、採択率の高い助成金となっておりますので、来年度以降も積極的な応募をお願いいたします。また、2025 年 5 月 13 日(火)には、片平キャンパスさくらホールにて、第 14 回東北大学若手アンサンブルワークショップが行われました。前年度の課題採択者の研究発表や若手研究者の口頭発表、ポスター発表が行われました。次回、第 15 回東北大学若手アンサンブルワークショップは、2025 年 12 月 12 日(金)に同場所にて開催予定です。皆さまの積極的なご参加をお願いいたします。令和 7 年度研究所若手アンサンブルプロジェクト WG 加齢研委員 家村顕自(分子腫瘍学研究分野)、アンサンブルプロジェクト HP: <http://web.tohoku.ac.jp/aric/>

## 2. 加齢研新人研修会

日 時: 令和 7 年 6 月 30 日(月) 午後 1 時  
15 分から対面で開催

場 所: 加齢研スマート・エイジング研究棟  
国際会議室

## 3. 第 5 回加齢研若手共同研究助成金成果報告会について

成果報告は例年どおり加齢研新人研修会と同日に行われました。

日 時: 令和 7 年 6 月 30 日(月) 午後 1 時  
15 分から対面で開催

場 所: 加齢研スマート・エイジング研究棟  
国際会議室

座 長: 菅原麟棋(呼吸器外科学分野)

助成金趣旨説明: 菅原麟棋(呼吸器外科学)  
研究員会委員(5 分)

成果報告:

(課題1) マウス肺門遮断再灌流モデルを用いた活性イオウ誘導体 GSSSG による虚血再灌流傷害抑制効果の検討

呼吸器外科学分野 武田哲人(発表9分, 質疑3分)

(課題2) 乳がん・卵巣がん原因となる HR 遺伝子のゲノム安定性維持機構のメカニズムの解明と, 新規がん治療の構築

分子腫瘍学研究分野 宇井彩子(発表9分, 質疑3分)

(課題3) BRAF 変異型大腸癌細胞における中心体制御や細胞分裂制御が BRAF 標的治療の効果に与える影響に関する研究

臨床腫瘍学野 吉田裕也(発表9分, 質疑3分)

総括: 田中耕三所長

#### 4. 加齢研研究員会総会

総会委任状の確認を行い, 規約第8条による総会開催の確認をいたしました。

日 時: 令和7年6月30日(金) 午後5時～5時10分対面で開催

場 所: 加齢研 SA 棟 1 階ロビー

1. 議長選出 河岡慎平研究員会委員長に議長をお願いいたしました。
2. 委任状の確認 出席者 19 名, 委任状 118 名, 計 137 名(総会員数 168 名の過半数)により総会成立
3. 令和6年度の決算報告 収入の部, 支出の部  
菅原麟棋書記・会計・助成金係より報告, 承認されました。
4. 令和7年予算(案)収入の部, 支出の部  
菅原麟棋書記・会計・助成金係より説明, 承認されました。
5. 「委員長, 副委員長選挙規定」の一部改定について  
河岡慎平研究員会委員長より説明, 承認

されました。

#### 6. その他

#### 5. 新入会員歓迎会新入会員歓迎会

日 時: 令和7年6月30日(月), 午後5時15分から開催

場 所: 加齢研 SA 研究棟国際会議室 1 階ロビー

#### 6. 第164回集談会(R7.7.11)での研究員会第47回発表コンテスト

令和7年7月11日(金) 午後1時から対面で開催されました。

研究員会第47回コンテスト学生セッション受賞

- 1 位: 臨床加齢医学研究分野(川島啓聖先生, 鈴木晴駿先生, 橋本茉里先生, 田中希和先生)
- 2 位: 認知行動脳科学研究分野(Chiu Tzu Tien 先生)
- 3 位: モドミクス医学分野(小川亜希子先生)
- 4 位: 人間脳科学研究分野(高橋一也先生)
- 5 位: 統合生理学分野(Hardiani Alexandra 先生, 近藤真陽先生)

表彰式は研究会同窓会総会後に開催の園遊会で行われました。

#### 7. 第9回加齢医学研究所リトリートについて

日 時: 令和7年9月16日(火)～9月17日(水)

場 所: 秋保リゾートホテル クレセント

参加者: 29 名

#### 8. 令和7年度加齢研若手共同研究助成金について

本助成金における採択プロセスの共有と採択者の発表を行った。

- 鈴木晴駿 臨床加齢学研究分野
- 張 文玉 応用認知神経科学科学センター
- 渡辺数基 生体防御学分野
- 菅原麟棋 呼吸器外科学分野
- 近藤真陽 統合生理学研究分野

#### 9. 加齢研研究員会セミナー

日 時：令和 7 年 6 月 11 日（水）午後 5 時～  
場 所：加齢研実験研究棟 7 階セミナー室 1  
講 師：原 敏朗（Toshiro Hara）  
所 属：ミシガン大学（University of Michigan）

演 題：空間一細胞解析を用いたヒト膠芽腫エコシステムの解析  
Dissecting Glioblastoma Ecosystem using Spatially Resolved Single-Cell Analyses

担 当：家村顕自（分子腫瘍学研究分野・内線 8490）

日 時：令和 7 年 10 月 6 日（月）午後 4 時～  
場 所：加齢研実験研究棟 7 階セミナー室 1  
講 師：Joseph S. Takahashi, Ph.D.  
所 属：Department of Neuroscience, University of Texas Southwestern Medical Center

演 題：Circadian Clock Regulation of Longevity

担 当：佐藤亜希子（統合生理学研究分野・内線 8544）

日 時：令和 7 年 10 月 29 日（月）午後 3 時～  
場 所：加齢研実験研究棟 7 階セミナー室 1  
講 師：松田卓也 博士  
所 属：神戸大学名誉教授

演 題：人類史の転換点まであと 5 年！?

担 当：安井 明（所属 分子腫瘍・安井研究室・内線 8465）

#### 10. 加齢研研究員会スポーツ大会について

日 時：令和 7 年 10 月 28 日（火）13:00～15:00

場 所：星陵体育館

種 目：バトミントン

#### 11. 令和 7 年度第 1 回加齢研交流セミナー

12:00～14:00

日 時：令和 7 年 12 月 22 日（月）

場 所：加齢研実験研究棟 7 階セミナー室 1

講演者：心臓病電子医学分野 白石泰之先生

生体情報解析分野 河岡慎平先生

#### 今後の予定

1. 第 165 回集談会（R8.2.6）での研究員会第 48 回発表コンテスト

2. 第 165 回集談会終了後に行います研究員会主催新年会

日 時：令和 8 年 2 月 6 日（金）集談会終了後

場 所：加齢研実験研究棟 7 階セミナー室 1

3. 第 2 回加齢研交流セミナー（日程と講師は未定）

講演者：応用脳科学研究分野

認知行動脳科学研究分野

4. 研究会主催の外部講師のセミナー

DATE セミナー（ダテセミナー）について

DATE は Distinguished, Accomplished, Top-notch, Excellent の頭文字をとっています。

以下の通り開催の日程が決まりました。

岡野栄之先生（慶應義塾大学再生医療リサーチセンター センター長）令和 8 年 3 月 12 日（木）、13 日（金）

セミナーは 3 月 12 日（木）時間は未定。



室伏広治先生（東京科学大学 副学長）医学部と共同によるセミナー開催に向けて協議中。

### 【研究会同窓会広報】

庶務幹事 千葉 奈津子

庶務報告

1. 研究会同窓会会員の確認（令和7年12月現在）

会員数 2,307名

（所内在籍者208名、所外683名（過去5年間の会費未納者は、209名で加齢研ニュースは送付していません。）海外91名、退会者719名、物故者369名、住所不明237名）

賛助会員 20施設

購読会員 17件

物故会員（令和7年6月～令和7年11月までの間に事務局に連絡がありました。）

伊澤 豊春先生 令和6年10月21日 加齢研呼吸器腫瘍

永井 彰先生 令和6年12月12日 抗研癩

アン・イン・セン先生 令和7年4月14日 抗研外科

黒木登志夫先生 令和7年8月28日 抗研肺癌

北田 一浩先生 令和7年9月5日 抗研臨床癌化学

2. 2nd IDAC (Tohoku University) x Karolinska Institutet Symposium～Brain and Aging～

日時：令和7年6月2日（月）～4日（水）

場所：加齢医学研究所 スマート・エイジング研究棟 国際会議室

3. 第164回集談会

日時：令和7年7月11日（金）午後1時から対面形式で開催。

分野長セッション2題、学生セッション9題

ン9題

4. 令和7年度加齢医学研究所研究会同窓会総会、懇親会（園遊会）

日時：令和7年7月11日（金）

集談会終了後

場所：加齢医学研究所 スマート・エイジング研究棟 国際会議室

5. 加齢研セミナー（令和7年6月～令和7年11月の間に開催されました。）

日時：令和7年6月12日（木）午後4時～

場所：加齢医学研究所実験研究棟7階 セミナー室（1）

講師：今井眞一郎 M.D., Ph.D. テオドール & バーサ・ブライアン卓越教授（環境医学）

所属：米国ワシントン大学セントルイス校 医学部発生生物学部・医学部（兼任）

担当：佐藤亜希子（統合生理学研究分野・内線 8544）

日時：令和7年7月7日（月）午後4時～

場所：東北大学 加齢医学研究所 スマート・エイジング研究棟1階 国際会議室

講師：Jason Hinman

所属：カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）神経内科

演題：Emerging biomarkers for vascular cognitive impairment

担当：瀧 靖之（臨床加齢医学研究分野・内線 8556）

日時：令和7年7月7日（月）午後4時～

場所：加齢医学研究所 スマート・エイジング研究棟1階 国際会議室

講師：金子直樹

所属：Division of Interventional Neuroradiology, Ronald Reagan UCLA Medical Center

演題：Accelerating Neurovascular Device Innovation From Bench to Bedside

担当：瀧 靖之（臨床加齢医学研究分野・内線 8556）

日時：令和 7 年 7 月 18 日（金）午前 11 時～

場所：加齢医学研究所実験研究棟 7 階 セミナー室（1）

講師：内藤 健

所属：国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 遺伝資源研究センター

演題：アズキの起源を遡って見たら日本だった件

担当：河岡慎平（生体情報解析分野・内線 8568）

日時：令和 7 年 8 月 6 日（水）午前 10 時～11 時

場所：加齢医学研究所実験研究棟 7 階 大会議室

講師：Professor Shiao-Wen Tsai

所属：長庚大学生物医学（台湾）

演題：バイオコーティングと材料表面修飾の課題

担当：白石泰之（心臓病電子医学分野・内線 8517）

日時：令和 7 年 9 月 1 日（月）午後 4 時 30 分～

場所：加齢医学研究所実験研究棟 7 階 セミナー室（1）

講師：Dr. Roger Rönn

所属：Lund University (affiliated researcher), Sorbus Biomedical AB (founder & CEO)

演題：Improving *In Vitro* Cell Cultivation by

Rethinking Fundamental Methodology

担当：河岡慎平（生体情報解析分野・内線 8568）

日時：令和 7 年 9 月 24 日（水）午前 10 時～

場所：加齢医学研究所実験研究棟 7 階 セミナー室（1）

講師：Dr. Liron Bar-peled

所属：The Center for Cancer Research at Massachusetts General Hospital, The Department of Medicine at Harvard Medical School

演題：Identification of Druggable and Redox Vulnerabilities in Cancer

担当：河岡慎平（生体情報解析分野・内線 8568）

日時：令和 7 年 9 月 25 日（火）午後 4 時～

場所：加齢医学研究所 SA 棟 4 階 セミナー室

講師：Müller, Claudia 先生

所属：Universität Siegen IT für die Alternde Gesellschaft Fakultät III

演題：Practice-based & participatory IT design for the ageing societies

担当：瀧 靖之（臨床加齢医学研究分野・内線 8559）

日時：令和 7 年 9 月 29 日（火）午後 1 時～

場所：加齢医学研究所 SA 棟 6 階 セミナー室

講師：Yalin, Zheng 先生

所属：University of Liverpool Faculty of Health and Life Sciences

演題：Artificial Intelligence in Healthcare with Applications in Eye Diseases and Beyond

担当：瀧 靖之（臨床加齢医学研究分野・内

線 8559)

セッションの講演を予定

日時：令和7年9月30日（火）午後4時～  
場所：加齢医学研究所実験研究棟7階 セミ  
ナー室（1）  
講師：Dr. Hong-Wen Tang  
所属：Program in Cancer and Stem Cell Biolo-  
gy, Duke-NUS Medical School  
演題：Tumor-Muscle Crosstalk : Insights into  
Cachexia-Associated miRNAs  
担当：河岡慎平（生体情報解析分野・内線  
8568）

日時：令和7年10月20日（月）午後4時～  
場所：加齢医学研究所 SA 棟6階 セミナー  
室  
講師：Rainer Wieching 先生  
所属：University of Siegen Fakultät III the In-  
stitute for Information Systems and New  
Media  
演題：European ethical guidelines and require-  
ments for trustworthy artificial intelli-  
gence (AI)  
担当：瀧 靖之（臨床加齢医学研究分野・内  
線 8559）

## 6. 加齢研ニュース発行

83号 令和7年6月

84号 令和7年12月

今後の予定

### 1. 第165回集談会

日時：令和8年2月6日（金）13時からの  
予定。  
場所：加齢医学研究所 スマート・エイジン  
グ研究棟 国際会議室  
加齢研研究奨励賞受賞記念講演。分野

### 2. 第166回集談会

日時：令和8年7月10日（金）13時からの  
予定。  
場所：加齢医学研究所 スマート・エイジン  
グ研究棟 国際会議室  
新任教授講演。分野セッションの講演  
を予定

### 3. 令和8年度加齢医学研究所研究会同窓会総 会、懇親会（園遊会）

日時：令和8年7月10日（金）  
総会 集談会終了後  
場所：加齢医学研究所 スマート・エイジン  
グ研究棟 国際会議室  
懇親会（園遊会） 総会終了後、予定

### 3. 加齢研ニュース発行

85号 令和8年6月

86号 令和8年12月

[編集後記]

加齢研ニュース第84号をお届けいたします。  
今号では、新任教授の河本先生にご寄稿いた  
だきました。河本先生は、免疫学を専門として、  
食の観点から「腸内細菌」「細胞老化」をキーワ  
ードに研究を展開していただけるとのことで、私  
も含め所内共同研究も活発になるものと期待し  
ております。また、分野紹介は、木下先生から  
ご寄稿いただきました。お忙しい中、寄稿して  
いただいた先生方に心よりお礼申し上げます。  
これからも加齢研ニュースが、加齢研関係者の  
よりよい交流の場となるように活動していきたい  
と思っております。引き続き、加齢研ニュー  
スにご支援、ご協力をお願いします。

（文責：小笠原康悦）